

茂原市人口ビジョン (平成 27~72 年度)

I. 人口の現状分析 (要旨)

- 本市の人口は、2000年(平成12年)の93,779人をピークとして減少に転じ、2015年(平成27年)4月1日時点では91,646人となっている。
- 年少人口及び生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加が続いている。
- 自然増減は2005年(平成17年)以降に減少幅が拡大、社会増減は、2001年(平成13年)以降は減少した年が多く、とりわけ子育て世代(20~39歳)の転出超が目立つ。
- 本市への転入は「いすみ市」、「白子町」など(茂原市からみて太平洋側)、転出は「千葉市」、「船橋市」など(茂原市からみて東京湾側)が多い。
- 合計特殊出生率は2013年(平成25年)の1.25と国(1.43)、県(1.33)より低い。

II. 将来人口の推計 (2060年〔平成72年〕時点)

(推計①) 2005~15年(平成17~27年)の社会移動率及び現状の合計特殊出生率(1.25)が今後も続いた場合

〔総人口4.5万人(年少0.3万人、生産年齢2.1万人、老年2.1万人)〕

(推計②) 2030年(平成42年)までに希望出生率(1.65)を実現した場合

〔総人口4.9万人(年少0.5万人、生産年齢2.3万人、老年2.1万人)〕

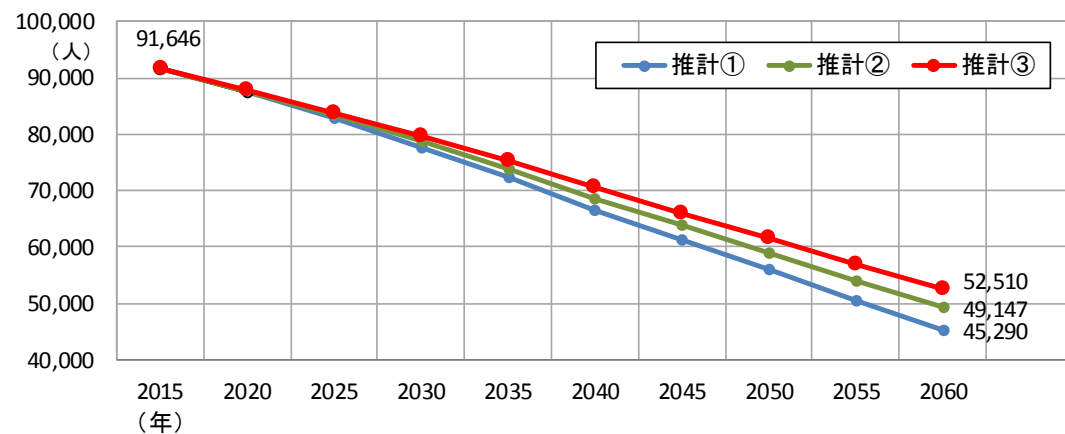
問題意識 本市の社会増減は、子育て世代(特に20~24歳)の社会減が大きいため、出生率を高めるだけでは人口の維持に大きく寄与はしない。

III. 人口の将来展望

(推計③) 2030年(平成42年)までに希望出生率(1.65)が実現し、子育て世代(20~39歳)の社会減を半減させた場合

〔総人口5.3万人(年少0.6万人、生産年齢2.5万人、老年2.1万人)〕

2060年(平成72年)に目標とする将来人口53,000人(推計③のベース)



茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (平成 27~31 年度)

(策定の趣旨) 本市が、社会・経済情勢の変化に対応しつつ、安定的・継続的に市民の暮らしを守ることができるよう、人口の現状と将来の展望を提示する「茂原市人口ビジョン」を踏まえた本戦略の基本目標に基づいた施策を推進し、自立した活力あるまちづくりの実現を目指します。

基本目標	施策の基本的方向	具体的な施策
(1) 産業が力強く成長するまち 〔しごとの創生〕	①成長産業の立地促進	ア. 茂原にいはいはる工業団地を核とした企業立地 イ. 地域資源を活かした新産業の創出
	②市内産業の競争力強化	ア. 市内企業の生産性向上及び販路拡大 イ. ICTを活用したビジネスチャンスの拡大 ウ. 商店街の活性化の推進 エ. 将来につなげる強い農業づくり
(2) 結婚・妊娠・出産・子育てを応援するまち 〔ひとの創生〕	①結婚・出産の希望に応える支援	ア. 結婚の支援 イ. 健やかな妊娠と出産の実現
	②安心して子育てできる環境づくり	ア. もう一人子どもが欲しくなる家庭づくり イ. 地域で支える子育て環境づくり ウ. 幼児期の健康な心と身体の育成 エ. 子育て支援制度の充実
(3) 市民の活力と賑わいにあふれるまち 〔ひと・まちの創生〕	①移住・定住の促進	ア. 住まいの確保支援による移住の促進 イ. 地元企業への就職による定住の促進 ウ. 生活に必要な情報の効果的な提供
	②まちの魅力を活かした賑わいづくり	ア. 地域資源を活かした交流人口の拡大 イ. スポーツで培う市民の活力 ウ. まちの魅力の発信
(4) 地域力が暮らしを支えるまち 〔まちの創生〕	①市民が主体的に取り組む住みよいまちづくり	ア. 活発な市民活動の推進 イ. ICTを活用した地域の課題解決の推進
	②心身ともに安心・安全に暮らせるまちづくり	ア. 医療・介護が支える住みよいまち イ. 防災・防犯対策の充実
	③交通の利便性向上	ア. 快適で使いやすい交通ネットワークの構築 イ. 圏央道の利活用による利便性の向上